

1. 研究活動

<p>『アールプイフォーワイルド ドグース株式会社 新商品 開発』の受託研究について、 専 門 誌『JIMNY SUPER SUJY』にプロジェクトの 内容を連載</p>	<p>2012. 2～6</p>	<p>株式会社芸文社 専門誌『JIMNY SUPER SUJY』 2012年 2、4、6月の各 号</p>	<p>アールプイフォーワイルドグース株式会社の 依頼により受託した新商品開発研究の内容を 3号にわたり連載した。</p>
<p>GIA フォーラム司会：2030 ・スモールカーでワクワク 移動 ～小さなクルマの大きな未 来～</p>	<p>2012. 5. 23</p>	<p>発表会場：パシフィコ横 浜アネックスホール 主催：自動車技術会デザ イン部門委員会</p>	<p>2030年のモビリティのあるべき姿をデザイン 部門委員会として軽自動車を中心に考え提言 した。 企 画：デザイン部門委員会 このフォーラムを幹事として企画運営、また 司会進行を担当した。</p>

デザイン研究所受託研究 『新しい世代へのベビー用品のデザインおよび機能の開発』	2012. 5. 1 ～2013. 3. 31	名古屋芸術大学 デザイン学部デザイン研究所プロダクト & スペースブロック +ID コース 3、4 年生	提案はベビー用品の範囲で、社会動向、市場性を考慮し、ユニバーサルデザイン、サステイナブルデザインなどの考えを取り入れ、先行開発しておかなければならない商品を想定し提案した。開発は芸術大学という環境を生かし、将来のトレンドリーダーとなる、デザインに対して意識の高い学生層を中心としたメンバーで行い、これに研究員、教員の経験による判断を付加することで次期商品にふさわしい商品の姿を提案、デザイン開発、試作モデルまで制作した。
教員展	2012. 6	名古屋芸術大学 B ギャラリー	受託研究の展示 デザイン研究所で受託し、地元の中小企業によるチームエコラボと共同開発を行った環境冷却システムの試作機およびそのコンセプトパネルを発表。
『ホンダデザインセミナー 2012』	2012. 6. 9・10	ホンダ技術研究所主催 名古屋芸術大学 ID コース協賛 会場：名古屋芸術大学西キャンパス X 棟 313、314 教室	カーデザイナーの育成を目的に、株式会社ホンダ技術研究所が主催、名古屋芸術大学が協賛するデザインセミナー、東海地区の大学や専門学校でインダストリアルデザインを専攻する総勢 30 名（名古屋芸大生 14 名）の学生が参加した。
技術会議活動レポート執筆	2012. 9	自動車技術会発行『自動車技術 9 月号』	自動車技術会デザイン部門委員会では 2012 年 5 月 23 日春季大会フォーラム「2030・スモールカーでワクワク移動」を開催。下記の内容で実施したので報告を自動車技術に掲載した。 ◇ 基調講演：経済産業省 商務情報政策局 クリエイティブ産業課 デザイン政策室長 伊吹 英明による「クールジャパン戦略とデザイン政策の概要」 ◇ 軽自動車メーカーデザイン部門代表からのフォーラムテーマに沿った講演 ◇ モータージャーナリスト竹岡圭氏をモデレータにメーカー代表 4 氏とのパネルディスカッション
個人の受託研究『地方企業のためのブランド戦略』	2012. 8 ～2013. 3	株式会社小泉製作所 + 片岡デザインオフィス	富山の地方企業、小泉製作所よりそのブランド戦略を受託、CI に始まりブランド提案、ロゴ、商品の企画、販売戦略、展示会ブースのデザイン開発などを行った。
なごや・キッズ・デザイン展 参加	2012. 11. 21 ～ 26	国際デザインセンター 4F デザインギャラリー	中部デザイン団体協議会 (CCDO) 構成 15 デザイン団体から、子どもたちの「安全・安心」とともに「遊びや楽しさ」に配慮した作品を展示した「なごや・キッズ・デザイン展」が 4F デザインギャラリーで開催され、これに、ID コースから受託研究『新しい世代へのベビー用品のデザインおよび機能の開発』の成果を発表した。

卒業制作展訪問	2013. 1～3	会場:各大学卒業制作展会場 主催:日本インダストリアルデザイナー協会 中部ブロック	JIDA 企画委員としてイベントを主催。デザイン系大学、専門学校の卒業制作展を訪問、学生のプレゼンテーションを受け作品を評価。JIDA 賞を授与した。
---------	-----------	---	---

## 2. 教育活動（教育実践上の主な業績）

大学院授業担当 ■有 □無

授業科目 製品企画論 A		<p>◆前期 □後期</p> <p>工夫の概要</p> <p>デザイナーとしての経験を生かし、デザインの現場で何がどのように行われているのか、可能な限り最新の情報を元にリアルな講義を工夫した。</p>	<p>教材・資料等の概要</p> <p>デザインの現場にできるだけ近似した内容のパワーポイントを毎回作成しこれを活用した講義。</p>	<p>プロダクトデザインにおける様々な仕事の種類を細かく説明し、今後の職種選択の参考となるよう講義を進めた。</p> <p>講義形式は実際のメーカー内でのプレゼンテーションを模した形式で行い、リアリティーを持たせた。</p> <p>また、カラーデザインについては自動車メーカーから現場のデザイナーを特別講師として依頼し、特別講義を開催した。</p>
◆前期 □後期				
授業科目 デザイン実技Ⅲ (PS) ID		<p>◆前期 ◆後期</p> <p>工夫の概要</p> <p>デザイン表現力の向上を第1目標とし、スケッチ、レンダリング、モデリングを、実際に手を動かしながら指導を行った。また特別公開講座によるスケッチセミナーにも授業として参加した。</p>	<p>教材・資料等の概要</p> <p>プロデザイナーのスケッチやイメージボードなどできるだけ現場での仕事で体感できるような資料、情報を提供した。</p>	<p>デザインイベントや講演会、展示会などできるだけ多くに学外授業として参加した。</p> <p>1. ウェルフェアの見学（ユニバーサルデザイン関連）</p> <p>2. アクシスギャラリー『金の卵』展参加</p> <p>後期授業ではカーデザインに集中したカリキュラムとし、より専門的な経験を積むことができるようカリキュラムを展開した。また、企業によるデザインの特別授業を積極的に取り入れ、卒業後の進路や、現場のデザインを理解できるよう配慮した。</p>
◆前期 ◆後期				
授業科目 デザイン演習Ⅱ-1 (PS-ID)		<p>◆前期 □後期</p> <p>工夫の概要</p> <p>プロダクトデザインの中でも特にカーデザインを中心にその表現技法を学ぶ演習。これを学ぶことにより、さまざまな工業製品におけるスケッチ表現の基礎とする。また将来カーデザインに関する仕事を考える学生には、その基本となる表現力の習得を目標とする。</p>	<p>教材・資料等の概要</p> <p>スケッチ手順のPPT、プロデザイナーによるスケッチサンプルを配布。</p>	<p>授業の後半を、名古屋芸術大学とホンダ技術研究所により開催されたスケッチセミナーに参加。これにおいて、プロデザイナーから集中講義形式で直接デザインやスケッチの指導を受け、デザインの現場でどのようなデザインやスケッチが必要か実体験した。</p>
◆前期 □後期				

授業科目 立体造形		手を動かし、立体に触れることにより三次元の楽しさやデザインの広がり、可能性を感じ取ることができるよう指導、特に感動を味わうことができるよう心がけた。 また、他の学生の作品を全員で評価し、デザインやアイデアには限りなく可能性があることを感じさせた。 本年度は特に2クラス合同で授業を進め、学生がより多くの作品に触れることができるよう展開を考えた。
◆前期 □後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
1年生はこれまで立体に触れたことの無い学生がほとんどで、回転体を製作することで、立体表現に親しみ、興味を持つことを目標とした。	行程を示すパワーポイントによる講義を実施。	
授業科目 インターンシップ演習		実際の現場での体験を行うことにより、初歩的な職業的技能を身につけるとともに、社会人として働くことの意義を感じ取り、将来の職業選択や職業意識の育成に役立てることができた。また、各自の職業に対しての適正も確認することができるよう配慮した。この積み上げが成果をあげてきており、毎年インターンシップの希望者が増加してきている。
□前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
企業での職業体験を通し、実社会でのデザイナーとして働くために心掛けておかなければならないことを理解すると同時に、これに関する事前授業を行い、マナーやルールを指導した。	学生支援課と共同でインターンシップ企業に関する資料、マナーやルールについてのテキストを作成。	
授業科目 卒業研究		最終学年の最後の作品として、調査から課題の発見、その研究に基づき、製品を開発するまで、プロとして生きていくためのデザインプロセスを体験させた。JIDA 次世代委員会学生卒業訪問参加。
□前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
より広い範囲にその課題を求め、実体験を積み重ねる中で課題を発見するように指導。	あえて、資料を用意せず、各自が自分自身の手で素材を発見することを求めた。	

### 3. 学会等および社会における主な活動

自動車技術会 デザイン部門委員会	2002 デザイン研究会として発足、2004 より部門委員会に昇格 発足時はスズキ代表委員・幹事として、2005 より中立の委員として現在まで活動。2012 度より幹事。	◆活動の目的 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ものづくりの源流にたずさわるカーデザイナーが広く自信と存在感を示すための環境作り。</li> <li>・未来を担う若年層に向けてカーデザインの意味や重要性を伝えカーデザイナーへの動機付け。</li> <li>・日本の自動車産業におけるカーデザインの重要性をアピールし、カーデザイナーの社会的地位の向上。</li> <li>・カーデザイナーだからこそ実現可能なユーザーと技術者のパイプ役。</li> </ul> ◆活動内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>・シンポジウム、フォーラムの開催</li> <li>・デザイン講習会開催</li> <li>・技術者との交流会</li> <li>・基準統一に関する働きかけ</li> </ul>
---------------------	--	--

1日芸大生	2012. 7. 29	<p>◆小学生のためにデザインの実験をとおして、その楽しさを理解してもらうイベント。</p> <p>ID コースでは、真空成型の実験とこれにより出来上がるトレイを使ったゼリー作りを行い、これに講師として参加した。</p>
日本インダストリアルデザイナー協会 (JIDA)	2006. 4 入会 2007 ~ 2011 の間幹事	<p>◆中部ブロック役員として総会、セミナーなどの開催、次世代委員会委員として若手や学生の育成を目的としたイベントの開催</p>